

今月は、花が綺麗な季節に読みたい本を紹介します。

『はなのすきなうし』

マンロー・リーフ／おはなし ロバート・ローソン／え 光吉 夏弥／やく

岩波書店 1980年 ¥800(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児★☆☆ 小低学年★★★ 小中学年★☆☆ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆

高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

スペインにいる「ふえるじなんど」という子牛は、他の子牛のように跳んだりはねたりするのではなく、草の上に座って静かに花のにおいをかいでいるのが好きでした。その後「ふえるじなんど」は、とても大きくて強い牛になりましたが、やはり暴れるよりも花のにおいをかぐことが好きなまま。

ある日、人間たちが、マドリードの闘牛に出すための、一番大きくて一番足が速くて一番乱暴な牛を探しに来たのですが…？

<子どもに手渡す時のポイント>

字が大きく、すべてのページの見開きの左半分が挿絵になっているため、絵本から一人読みへの移行期にちょうどいい本です。(福岡市総合図書館では絵本に分類されています)

ただ、挿絵は白黒のみで、独特なタッチなため、とっつきにくい印象があるかもしれません。でも、ふえるじなんどの表情などがとてもユーモラスで味があり、闘牛場の様子なども詳細でわかりやすく、お話を読む助けになる挿絵です。無理に一人で読ませようとするよりも、一度読み聞かせをしてあげると、お話や挿絵の面白さに気付き、自分でも読めるようになっていけるのではないかと思います。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみて下さい。